

**平成26年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進専門講座事業報告**

I 事業の概要

研修テーマ 協働（互助・共助）によるまちづくり・人づくり
～新たな施策（事業）構築に向けた地域の実態把握の手法を知る～

- 1 趣 旨 人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画等に関する基本的・実務的な知識や技術などについて理解を深める。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
- 3 期 日 平成26年11月6日（木）・7日（金）
- 4 会 場 道民活動センタービル「かでる2・7」10階 1040研修室ほか
- 5 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員など）、生涯学習関連施設（児童館、勤労青少年センターなど）職員、生涯学習・社会教育行政担当者等 30名
- 6 参加状況 42名（社会教育関係職員 21名、社会教育関係職員以外 21名）
- 7 日 程

9:30		10:00		10:15		12:00		13:00		17:00	
	受付	開会	講演			昼食 休憩	ワークショップ				

9:00		9:30		11:30		12:00		13:00		14:30		15:30	
	受付	事例研究			意見 交換	昼食 休憩	講義		ふりか えり				



8 活動の概要

(1) 講演「協働（互助・共助）を効果的に進めるための基盤づくりの技法」

【講師】宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授 佐々木 英和 氏

【内容】「つなぎあい」から「にないあい」へつながるコミュニケーションの技法と教育概念の再定義と発想の転換、問題解決的思考について学んだ。



(2) ワークショップ「協働（互助・共助）の仕組み・仕組み・仕掛けをグループ学習しよう！」

【講師】宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授 佐々木 英和 氏

【内容】協働によるまちづくりの事業企画について協議しながら、ラベルワークを活用した「引き出しあい」「つなぎあい」「まとめあげる」手法を学ぶとともに、プレゼンテーションから評価までの流れを実際に体験した。



(3) 事例研究「住民の協働による施策（事業）～実践事例に学ぶ～」

①地域の自立～行政からのパートナーシップの可能性～

【講師】夕張市教育委員会社会教育主事 木村 愛 氏

【内容】行政主導時代から財政破綻までに至る経緯や行政と市民の意識変化について、活発な活動を続ける市民団体の取組について事例などを交えて紹介。

②NPOを核とした住民の協働による地域の課題解決の仕組みづくり

【講師】札幌市市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課

NPO法人審査担当係長 長尾 隆 男 氏

【内容】NPOや町内会等による協働の取組を支援し、地域課題の解決に向けた多様な主体が連携・協力関係を結び実践している活動事例について紹介。



(4) 意見交換

【コーディネーター】北海道立生涯学習推進センター主査 澤田 慎也

【内容】協働によるまちづくりについて、住民や行政、NPOがどのような連携をしていくことが有効なのかについて考えた。



(5) 講義「まちづくり・人づくりにつながる社会教育調査とデータ活用」

【講師】北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎 隆志 氏

【内容】ニーズとは何かや地域の課題等にせまる調査方法と地域づくりにつながる学習計画の立て方について学んだ。



(6) ふりかえり

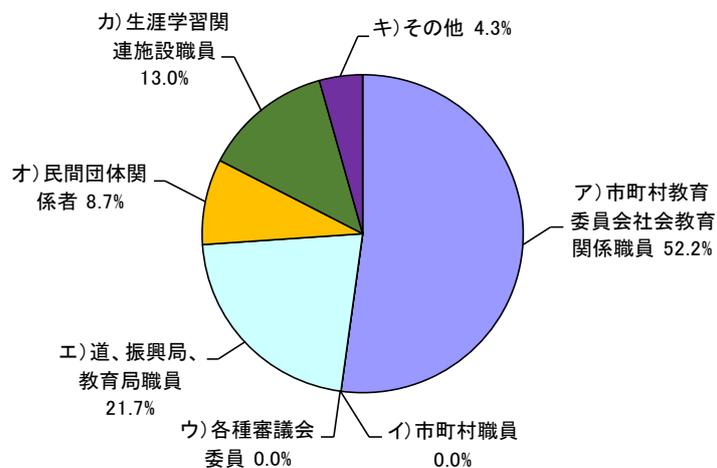
【コーディネーター】北海道立生涯学習推進センター主査 會田 大 祐

【内容】講座全体の学びを振り返るとともに、それぞれが捉えた協働による地域づくりについて考え、全体で交流した。



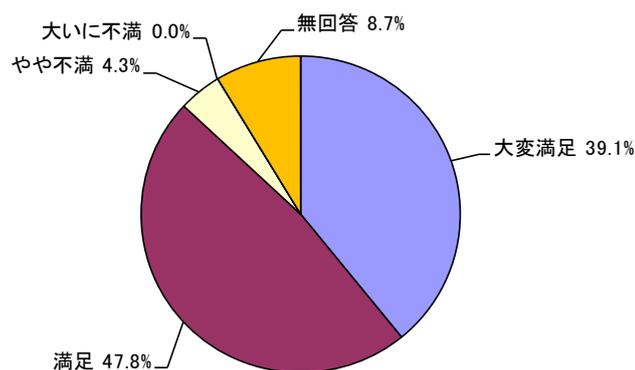
Ⅱ 事業の満足度

1 アンケート対象者数 42名 回答者数 23名 (回収率 54.8%)
参加者(所属)状況



2 講座全体をとおして

総合満足度	大変満足・満足 86.9%
-------	------------------

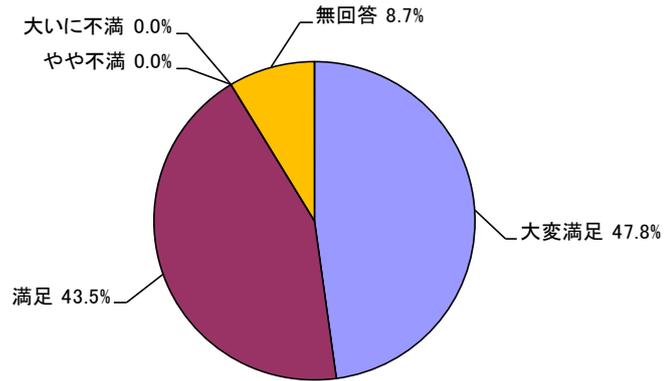


【参加者の声】

- 当初考えていた期待感を達成することができた。
- 事例研究はよかった。
- 協働(互助・共助)のテーマに沿ったわかりやすい講師・発表者による説明等がよかった。
- 自分の町の実情や日頃の取組と比較しながらどう推進していくか考えながら参加できる流れがよかった。
- 佐々木先生の話が大変参考になった。
- 難しい話もあり戸惑ったこともあったが、内容的には理解できた。
- コミュニケーションについて楽しく学べた。
- 少人数でわかりやすく議論を深められた。
- ワークショップの新しいやり方やまとめ方などを知ることができた。
- 今後の業務の参考になるような有意義な内容が多くあり大変勉強になった。
- 一日目の通しでのワークショップは刺激的だった。
- 実際に現場で活用できる役立つものになった。

3 研修プログラムの内容について

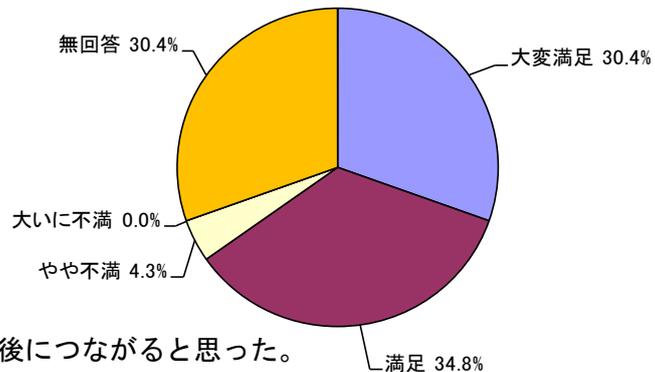
(1) 講演「協働（互助・共助）を効果的に進めるための基盤づくりの技法」



【参加者の声】

- 系統だった方法を教えてもらい、参考になった。
- 自然にワークショップ化していた手腕はお見事。
- コミュニケーションの大切さがわかった。
- 何となく感じていたことを体系的にまとめていただけた点がよかった。
- とてもわかりやすかった。
- 聞く・聴くなどのコミュニケーションについて学ぶことができた。
- 講師が面白かった。
- 飽きさせずに集中して聞くことができる内容で良かった。
- 参加者と先生が一体化して、楽しく理解できたのが良かった。
- 控えめに見せかけて、人は案外、自分の事を人に言いたいものだとあらためて感じた。
- 基盤づくりの技法が明確で理解しやすかった。そのもととなる。人とのつながりを大切にしていきたいとあらためて感じた。
- 協働は人と人との尊敬の気持ちがあれば必然的に生まれてくることがわかった。
- ポストイットでの意思表示や1対1でのコミュニケーションは活用したい。
- 多種多様なワークショップを行い、人づくりに関わるポイントを学習できた。
- コミュニケーション的な講師は最近よく体験することが多かったが、社会教育的な視点でわかりやすかった。
- 資料が多すぎた。

(2) ワークショップ「協働（互助・共助）の仕組み・仕組み・仕掛けをグループ学習しよう！」

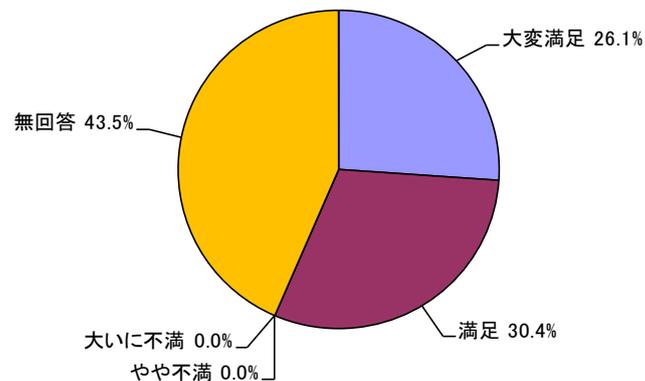


【参加者の声】

- 多様な方々とのワークは、今後につながると思った。
- ワークショップ自体が協働だったと思った。
- ワークショップが今までよりやりやすかった。
- 参加者の皆さん方といろいろな情報交換ができてためになった。

- 講演で習得した技法をフルに活用できました。いい流れと型にはまっていないワークショップがよかった。
- グループの人数・年齢等の配分がよかった。
- 楽しく参加できてワークショップの技法もいろいろと参考になった。
- 成果品を仕上げるまでの行程や人の意見をまとめる方法について理解した。
- 講演から、さらに深い内容のワークショップは、本音を浮かび上がらせる手法として素晴らしいと感じた。
- なんとなく全体のプロセスが不明で消化不良になったことが気がかった。
- ワークの中で答えを言いすぎかと感じた。
- 暫定的な定義の部分を曖昧にしていると感じた。
- 模造紙にグループで出し合った意見を集約する方向性がわからなかったのが戸惑った。
- 今回のワークショップを一般市民でやろうとしても難しいと思うので、自分なりにやり方を工夫しなければと思った。
- ワークショップの進め方がわかりにくかった。

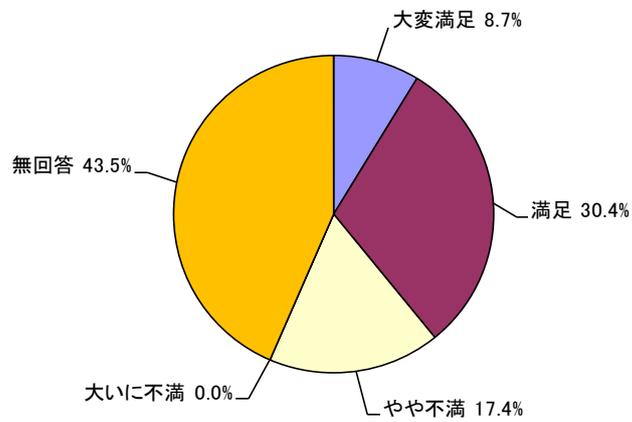
(3) 事例研究「住民の協働による施策（事業）～実践事例に学ぶ～」



【参加者の声】

- それぞれの市の実情に応じた取組がよくわかった。
- 夕張市の経緯を聞いて参考になりました。手弁当で事業を維持する気持ちが、強く感心した。
- 他の自治体の事例を学習することができてよかった。
- 夕張のように危機感があれば動き出すと思うが、その前にいろいろと仕掛けて行えばよいということがわかった。
- 夕張の発表において、社会教育主事としての想いと人とのつながりが具体的に感じられ、自分の活力となった。
- 夕張市の話は、ある意味、衝撃的でした。予算でなく人なのだ改めて考えさせられた。
- 特に木村さんのお話はヒントがたくさんあり、とてもよかった。
- 具体的な事例の内容を十分理解できた。
- 規模は違うが、2つの事例のアプローチが参考になった。
- 夕張市の状況を自分の市と比べてしまった。
- NPOのお話しは、大都市札幌での話で地方の小都市ではまちづくりに参画してくれる方々は限られ、いかに人材を発掘・育成するかの話を知ることができた。
- 夕張・札幌ともに1つの事例をもっと掘り下げてほしかった。
- 札幌はNPOに任せているので、社会教育主事の役割が見えなかった。

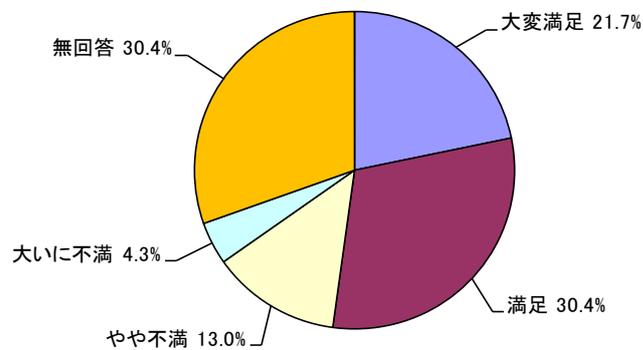
(4) 意見交換



【参加者の声】

- 意見交換を通して、参加者の感想や考え方、意見を聞くことができた。
- もう少し時間があればと思った。
- 時間的にどうか？休憩なしの通しで行うことは厳しい。

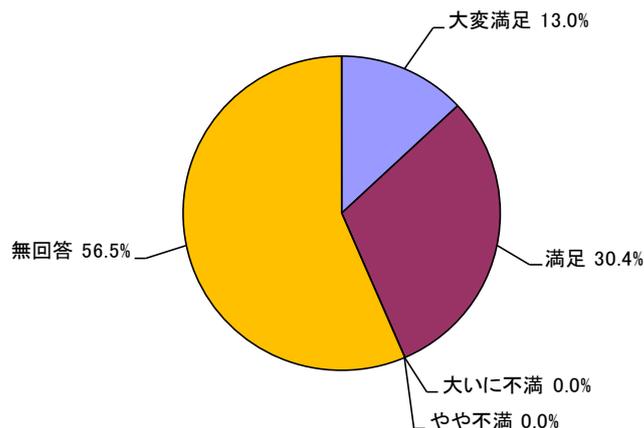
(5) 講義「まちづくり・人づくりにつながる社会教育調査とデータ活用」



【参加者の声】

- 今後の計画立案に参考となる内容だった。
- 「つぶやきを拾い集める」「問題を一般化しない」など、自分にとって今までの発想を転換させられる内容だった。
- つぶやきと収集とゆらぎのある計画づくりは、生活の中の物語の発見！インタビューを2年ほど続けていたので話している内容がわかりやすかった。
- まちづくりにつながるヒントをもらえたように思った。
- 北大の教授のお話を直に聞いて満足した。
- 逆算の思考ではなく目的自体も揺らぐことを許容する考え方がわかった。
- 高度すぎる内容で、もっと具体的な話を聞きたかった。
- 実際にどうやって計画をつくるのかが抽象的で分かりにくかった。
- 事業成果を求められる中で、ゆらぎのある計画づくりは難しいのではないかと。計画づくりのところをもう少し聞きたかった。

(6) ふりかえり



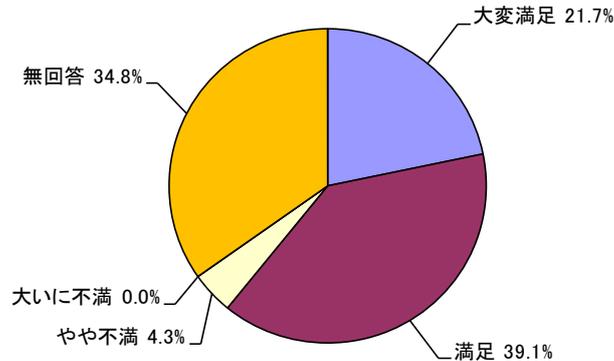
【参加者の声】

- ふりかえりの中で全体の反省とプロセスを再認識することができました。
- アンケートに向き合う時間はよかった。
- 同じプログラムを受けて、それぞれがどう感じているかが聞けてよかった。
- ワークショップ形式で進める方がよかったと思う。

4 講座の運営に関して

【参加者の声】

- 参加人数も丁度よい。
- フレンドリーだった。
- 人生を豊かにより良く生きていくことを生涯学習で学んだ。
- 学生を活用して運営されていてよかった。
- 適切な運営を展開していた。
- 運営者の無駄な介入が少なくてよかった。
- 時間に遊びがない。
- 席の形態を変える際に手荷物を持ち出さなければならず居心地が悪かった。



5 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の声】

- 工夫されていると、とても感じた。
- 部分参加できるので参加しやすかった。
- 有意義な学びとなり、感謝している。
- 案内をもう少し早くいただきたい。
- どうしても時間がオーバーすることがあるので、調整できる時間設定ができたらと思った。
- 全講座を受講できずに残念だった。11/6 午前中の佐々木先生の講義が時間切れになったのが（パワーポイント資料の7項目の説明）が残念だった。

6 今後の要望等

【参加者の声】

- ・ 創意工夫していると思うので、今後も期待している。
- ・ 生涯学習という視点であれば市町村職員や道職員等広い範囲にわたっているの、良い講師も来ていることから、より多くの職員の参加があればと感じた。
- ・ まちづくり、人づくりの成功、失敗例を把握したい。
- ・ 今回のような少人数でのグループワークであれば、もっと実践したかった。
- ・ 小グループでの事例交流から全体環流のような形で、それぞれの市町村の取組の成果と課題などを学びたい。